

01 TUE	元旦	■冬季休業(1月9日まで)
02 WED		
03 THU		
04 FRI		
05 SAT		
06 SUN		
07 MON	■一般試験・前期(兼特待生選考試験)願書受付開始(1月25日まで)	
	※一般試験実施学部/全学部(航空整備士コースは専願試験)	
	※特待生選考試験実施学部/芸術学部と航空整備士コースを除く全学部	
	■大学入試センター試験利用試験・前期	
	願書受付開始(2月4日まで)	
	※実施学部/全学部(航空整備士コース除く)	
08 TUE		
09 WED		
10 THU		
11 FRI		
12 SAT	成人の日	
13 SUN		
14 MON		
15 TUE		
16 WED		
17 THU		
18 FRI		
19 SAT		
20 SUN		
21 MON	■寒稽古(1月25日まで)	
22 TUE		
23 WED		
24 THU		
25 FRI		
26 SAT		
27 SUN		
28 MON		
29 TUE		
30 WED		
31 THU	■一般試験・前期 試験日	

2 FEBRUARY

01 FRI	■一般試験・前期 試験日	
02 SAT	■後期試験(2月13日まで)	
03 SUN		
04 MON		
05 TUE	■芸術学部卒業制作展(2月12日まで)	
06 WED		
07 THU		
08 FRI		
09 SAT		
10 SUN	■一般試験・前期 合格発表(薬学部以外)	
	■大学入試センター試験利用試験・前期 合格発表(薬学部以外)	
11 MON	建国記念の日	
12 TUE	■自己推薦試験・後期 願書受付開始(2月25日まで)	
	※実施学部/工学部・芸術学部・情報学部・生物生命学部	
13 WED		
14 THU	■一般試験・前期 合格発表(薬学部)	
	■大学入試センター試験利用試験・前期 合格発表(薬学部)	
15 FRI	■学内合同企業説明会	
16 SAT		
17 SUN		
18 MON	■一般試験・後期 願書受付開始(3月10日まで)	
	※実施学部/全学部(航空整備士コースは専願試験)	
	■大学入試センター試験利用試験・後期	
	願書受付開始(3月11日まで)	
	※実施学部/全学部(航空整備士コース除く)	
19 TUE		
20 WED		
21 THU		
22 FRI		
23 SAT		
24 SUN		
25 MON		
26 TUE		
27 WED		
28 THU		
29 FRI		

3 MARCH

01 SAT		
02 SUN		
03 MON	■自己推薦試験・後期 試験日	
04 TUE		
05 WED		
06 THU		
07 FRI	■自己推薦試験・後期 合格発表	
	■特待生試験	
08 SAT		
09 SUN		
10 MON	■大学院修了式	
11 TUE		
12 WED		
13 THU		
14 FRI	■一般試験・後期 試験日	
15 SAT	■卒業式	
16 SUN		
17 MON		
18 TUE		
19 WED		
20 THU	春分の日	
21 FRI		
22 SAT	■一般試験・後期 合格発表	
	■大学入試センター試験利用試験・後期 合格発表	
23 SUN		
24 MON		
25 TUE		
26 WED		
27 THU		
28 FRI		
29 SAT		
30 SUN		
31 MON		

崇城大学の冬の風物詩

「寒稽古」

1月21日[月]から25日[金]までの5日間
本学体育会館内の各道場等で実施されます



山鹿灯籠浪漫・百華百彩

1月25日[金]から3月1日[土]までの毎週金曜と土曜
国指定重要文化財である八千代座・豊前街道にて実施されます



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/エコデザイン学科
建築学科/宇宙航空システム工学科<航空整備士コース>
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 電子情報ネットワーク学科/ソフトウェアサイエンス学科/
コンピュータシステムテクノロジ学科
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
<博士後期課程>エネルギーエレクトロニクス専攻/
機械システム工学専攻/応用化学専攻/環境社会工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
<修士課程>電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
- 大学院芸術研究科
<博士後期課程>芸術学専攻
<修士課程>美術専攻/デザイン専攻

<http://www.sojo-u.ac.jp/>

SOJO 検索

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111(代表) FAX.096-326-3000
広報誌「かくふう」第46号 発行/2007年12月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課(koho@ofc.sojo-u.ac.jp)



UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION
MAGAZINE

TOP NEWS 中村晋也副学長が文化勲章を受章
特集 中山峰男学長が語る次代への進化





釈迦十大弟子



朝の祈り

平成19年度の文化勲章に、

本学の中村晋也副学長・芸術学部長が受章されました。

文化勲章の親授式は11月3日に皇居・宮殿「松の間」で行われ、

天皇陛下から勲章が手渡されました。

中村晋也先生の受章理由は、日本芸術院賞を受賞された「朝の祈り」や

薬師寺に奉納された「釈迦十大弟子」像など、

多年にわたり具象彫刻の秀作を発表してこられた業績によるものです。

TOP NEWS

中村晋也副学長が文化勲章を受章



中村先生は「夢のような評価をいただき、本当に嬉しい。

昔のことが走馬灯のように出てきました。

恩師フェノサが“よかったね”と言っているようです」

と受章の喜びを語っていらっしゃいました。

中山峰男学長は「本学副学長先生のご受章を心よりお喜び申し上げます。

中村先生のご受章は、本学にとって大変名誉なことと思っています。

中村先生には、本学芸術学部創設からご尽力いただき、熱意あふれるご指導により、

県内外で活躍する多くの素晴らしい学生たちが育ってきております。

今後もお壮健でご活躍されんことを祈念申し上げます」とお祝いの言葉を述べました。

中村先生には、お喜びの言葉とあわせて、

これまでのご自身の軌跡と今後の抱負を語っていただきました。

海老原喜之助先生との出会い

●東京高等師範学校(現・筑波大)を卒業して1949年、鹿児島に文部教官として赴任しました。鹿児島は油絵が盛んなところでしたが、彫刻の講座はまだありませんでした。そこで学生を一人ずつ勧誘しながら彫刻の教室を大きくしていきまいた。大学の4年間で一人前にするのは到底できるものではありません。卒業してからも志のある学生たちの面倒を見ているうちに、私の元から多くの人材が育ち、彫刻が次第に鹿児島の地に定着するようになりました。彫刻を根付かせようと必死でした。

●私が30代半ばの頃、南日本新聞社の要請で海老原喜之助先生に会いに行きました。熊本から転居して逗子市におられた当時の海老原先生は、日本洋画壇の精鋭としてインパクトがあり、近寄り難い存在でした。先生は私を育てようと思われたのか、目をかけて下さり、自分が審査委員長をされていた「南日本美術展」の最も若い審査委員として、私を委嘱して下さいました。さらに先生が創設された同展の海外留学生派遣制度で、1966年にフランス留学することになりました。

アペル・フェノサに師事

●本当は彫刻の本場イタリアに行きたかったのですが、パリに留まることになるのです。日本を出てナホカからシベリア鉄道でコペンハーゲンを経由してパリに入りました。2・3日の滞在予定でしたが、そこで日本人留学生と出会った縁で、パリ在住の彫刻家、アペル・フェノサのアトリエに入ることになりました。

●当時の私は40歳。フェノサはスペイン・バルセロナ生まれの67歳。ピカソや詩人のジャン・コクトーらと親交がある、優雅な作風の彫刻家でした。その日からフェノサの助手となり、午前はフェノサの仕事を手伝い、午後は自分の作品を作り、またフランス語の勉強のためにラ・フランセにも通うという、忙しい留学生活が始まりました。1カ月ほどしてからフェノサが「毎日1点ずつ作品を作ったらどうか」と言いました。その時の経験が、その後の私を支えることになりました。

●一度目の留学から帰った時には120点余りの作品が出来ていました。ブローニュの森の葉っぱから着想を得た小品、「葉の精」シリーズです。日本でもこのモチーフで作ろうと意気揚々として仕事に取りかかったのですが、日本では、花や葉っぱは、囁いてくれませんか。雑草も何もしゃべってくれませんか。そこでまた、もう一度パリに戻ろうと決心しました。

(「中村氏は、優雅の擁護のために生まれている。その上、彼は異常な制作力を持っている。私は彼の将来を信じている。そして彼は、彫刻界に優れた位置を占めるだろう」1967年フェノサ)

「彫刻とは詩であり、心である」

●そして3年後の1969年、再び文部省在外研究員として1年間のフランス留学をするのですが、当時は外貨割当てが少なく、外国に出る手続きはとても大変でした。まず海外の研究所からのインビテーションが必要ですので、毎日イタリアや方々の国に手紙を出していました。しかし、どこからも返事が来ません。あきらめかけた頃、アメリカのメトロポリタン美術館から許可が下りた時には、うれしかったですね。外務省から外貨割当てをもらって、まず国外に出ることが先決でした。外貨は、滞在スケジュールに合わせてその都度振り込まれます。ハンバーガーで食べつなぎながらメトロポリタンに3カ月お世話になり、その後、オランダ経由でパリに入りました。

●再びフェノサに師事し、これでまた「葉っぱシリーズ」が作れるはずでした。ところが以前のように、葉っぱは囁いてくれませんか。「人間の感性は動くのか」と悩みましたが、そんな私に、フェノサはいつも「芸術は詩である。彫刻には詩がなければならぬ。ドラマが大切であり、動きを忘れてはならない」と語ってくれました。つまり「彫刻とは、詩であり、心である。作者の人間性の表れである」ということを私はフェノサから教えられたのです。

「祈り」から「ミゼレーレ」へ

●1980年代からは「祈り」がテーマになりました。私が生まれた世代は満州事変、日中戦争、太平洋戦争と続き、青年期まで戦争の真只中にいました。学生時代に召集を受け、そして終戦を迎えました。多くの学友、戦友、隣人が亡くなっていきました。今でも生き残った同級生たちが集まった時には、必ず亡師、亡友の話が出ます。亡くなった人々への鎮魂の思いを込めて、いつの間にか「祈り」をテーマとした制作をするようになりました。「レクイエム」や「深淵の祈り」、「朝の祈り」(昭和62年度日本芸術院賞を受賞)などです。

●また、沖縄・摩文仁の丘に建立した戦没者慰霊碑など、鎮魂のための慰霊碑を多く手がけるようになりました。1995年には「戦後50年」を迎え、これを機に「祈り」のテーマに終止符を打とうと考えていました、ところが……



朝の祈り(1988)



Miserere III (1996)

●その年の1月17日、阪神淡路大地震が起きました。3日ほどして瓦礫の中から火が出て、燃え広がっていく有様は、まるで生き地獄のようでした。その時、何かにせかれるようにアトリエに入り、「ミゼレーレ」の制作を始めました。「ミゼレーレ」を日本語に訳すのは難しいのですが、旧約聖書の詩篇から「救い」をテーマにしたもので、「救いたまえ」というような意味です。私の内なる祈りを18点の「ミゼレーレ」シリーズとして完成致しました。この内3点をパリの展覧会に出品したところ、パリの人々から高い評価をいただいて、「Miserere III」がバチカン美術館に収蔵されました(「Miserere I」は、震災地の神戸市三宮・花時計前駅に設置)。

●キリスト教的な主題を追っている時、スペインのキリスト教の聖地、サンチャゴ・デ・コンポステラを巡礼したくなりました。そこは、キリストの弟子であった、聖ヤコブを祀った聖地で、中世の頃から様々な国から巡礼者が訪れる場所です。私もキリスト教徒になったような気持ちで巡礼に加わり、やっとの思いでサンチャゴ大聖堂にたどり着きました。ミサに参加し、聖ヤコブの像がある祭壇の裏側に続く階段を上り、ヤコブ像を手で触れました。巡礼に来た人々は、聖ヤコブに心から祈りを捧げていました。その様子を見て、帰る間際にふと、奇妙なことが頭に浮かびました。「ここはキリストの12使徒の中の聖ヤコブの教会だが、世界には聖人の名を冠した教会が多くある。サンピエトロ大聖堂もそうだが、けれど、釈迦の十大弟子を本尊とした寺院が、果たしてあったらどうか」という思いでした。日本に帰って調べてみましたが、それはありませんでした。

「釈迦の生涯」が最後のテーマ

●日本の寺院にはごく少し、釈迦の十大弟子像はありますが、中国様式のもので、お釈迦様の時代の本当の姿が見えません。お弟子さんがいたからこそ、お釈迦様の言葉が後世に伝えられて仏教が始まったのです。どうすればお弟子さんたちの偉業を表現できるのかと悶々としておりました。そこで、奈良の法相宗大本山・薬師寺の高田好胤管主にお会いしましたところ、「私たちは「仏・法・僧」を学びます。仏様と法典は学びますが、僧についてはお

ろそかになっていたかもしれません」と話されました。さらに続けて「この度、白鳳の大伽藍が完成致しますので、是非そこに十大弟子像を奉納してもらえませんか」ということになりました。

●それから仏教の原風景や、お釈迦様、お弟子さんたち、特に十大弟子の足跡をたどる旅に出ました。インド、ネパール、タイ、ミャンマー、スリランカを訪ねました。現地を何度も取材しますと、難問だらけでしたが、次第にいろいろなことが見えて参りました。お一人お一人の物語、精神性を造形化することに精進いたしました。そして遂に2002年に10体が完成し、翌年の薬師寺の白鳳大伽藍落慶に合わせて、「釈迦十大弟子像」を奉納することができました。※2002年、中村先生は彫刻家としての永年の功績が認められ、平成14年度文化功労者に顕彰されました。

●その後、薬師寺から大講堂の弥勒如来の協侍として、「アサンガ(無着)」と「ヴァスバンドゥ(世親)」という、2体の像を依頼されました。この2人は兄弟で、法相宗の根本をなす唯識という仏教哲学を大成された高僧です。この2体の像は、今年やっと奉納することができました。

●今後も私に生命があるならば、「釈迦の生涯」をテーマとした連作に取り組みたいと思います。この連作はどのくらいかかるか分かりませんが、おそらく10年ぐらいいかかるでしょう。



釈迦十大弟子像(2003)

日本の原風景・一茶に寄り添う

●今年6月、日本橋三越本店特選画廊で「日本の原風景・中村晋也展・一茶の句に寄せて」を開催しました。「小林一茶」の童心と無垢な目に向き合っています。自然の中に人生を投影した人間・一茶の俳句に惹かれ、初めて彫刻で俳句の世界を表現しました。小品ですが、このシリーズは、日本の原風景を表現するものです。日本人の心に郷愁を呼び起こすような作品を作りたいと思っています。

*以上は文化勲章の受章決定直後に、鹿児島のご自宅で行ったインタビューをまとめたものです。中村先生が真摯に彫刻と向き合ってきたことがよくわかりました。中村先生は、他にも「大久保利通像」や「若き薩摩の群像」、「五代友厚像」など、九州にまつわる歴史的モニュメントも多数制作しておられます。熊本では1992年に国内最大の騎馬像である「菊池武光公」像を、2004年には崇城大学創設者である「中山義崇先生」像を制作されています。2007年には天草の初代代官・鈴木重成ら「鈴木三公」像が建立され、大阪城の豊国神社境内に「豊臣秀吉公」像が設置されました。この2008年には、奈良時代の名僧行基が建立したと伝えられている奈良の「喜光寺」の山門の仁王像を制作される予定です。なお、中村先生の彫刻の多くは、鹿児島市石谷町にある「中村晋也美術館」に展示・収蔵されています。



菊池武光公像(1992)



中村晋也 略年譜

- 1926(大正15年) 三重県に生まれる
- 1966(昭和41年) この年より翌42年まで南日本美術展よりフランス留学
A・FENOSAに師事
- 1969(昭和44年) 改組第1回日展に「宴の華」を委嘱出品し菊花賞を受賞
この年より翌45年まで文部省在外研究員として1年間フランス留学
再度A・FENOSAに師事する
- 1979(昭和54年) 「大久保利通公」像を鹿児島市甲突河畔に建立
- 1982(昭和57年) 「若き薩摩の群像」を鹿児島市西鹿児島駅広場に建立
- 1984(昭和59年) 日中友好和平の7体よりなる群像を中国湖南省長沙市に建立
第16回日展に「焦躁の旅路」を出品し文部大臣賞を受賞
- 1985(昭和60年) 「Mr.Kanaye Nagasawa」像をアメリカ・サンタローザ市に建立
- 1988(昭和63年) 「朝の祈り」(第19回日展出品作)により昭和62年度日本芸術院賞を受賞
西日本文化賞受賞
- 1989(平成元年) 日本芸術院会員に任命される
- 1990(平成2年) 社団法人日展常務理事に就任
- 1992(平成4年) 鹿児島県大学名誉教授となる
「菊池武光公」像を菊池市に建立
- 1994(平成6年) 社団法人日本彫刻会理事長に就任
- 1996(平成8年) 三越エトワールにて個展
財団法人中村晋也美術館設立
バチカン美術館に作品「Miserere III」が収蔵される
中村晋也作品集「人間を奏でる」を世界文化社より出版
- 1999(平成11年) 勲3等旭日中級章を受賞
崇城大学(旧熊本工業大学)の副学長に就任
(翌2000年より芸術学部長兼任)
- 2000(平成12年) 中村晋也作品集「Miserere mei―命よ―」を六耀社より出版
- 2001(平成13年) 神戸市三宮・花時計前駅に「Miserere」を設置
- 2002(平成14年) 紺綬褒章を受賞(3回)
中村晋也作品集「平成の釈迦十大弟子」を光村推古書院より出版
文化功労者として表彰される
- 2003(平成15年) 奈良市・薬師寺大講堂に「釈迦十大弟子」像を奉納
中村晋也作品集「薬師寺 釈迦十大弟子」を光村推古書院より出版
「釈迦と十人の弟子たち」を河出書房新社より出版
- 2004(平成16年) 法相宗薬師寺高田好胤和上像を薬師寺に設置
愛媛県今治市今治城に「藤堂高虎公」を建立
大阪証券取引所前に「五代友厚公」像を建立
崇城大学に創立者「中山義崇先生」像を建立
- 2005(平成17年) 北海道知事公邸に「残響」を建立
- 2006(平成18年) 東京都立川市真如苑恒明湧祥之舎応院院に「純陀」群像を建立
京都府福寺にて「釈迦十大弟子」尊像(中品)の開眼法要が行われる
- 2007(平成19年) 国立大学法人鹿児島大学学長諮問会議委員に就任
京都市京セラ美術館にて「祈り―中村晋也・内なる精神を刻む」展を開催
大阪城豊国神社境内に「豊臣秀吉公」像を建立
薬師寺大講堂に阿僧伽(アサンガ)菩薩・伐蘇睺度(ヴァスバンドゥ)菩薩像を奉納
「甞った平成の阿僧伽・伐蘇睺度」を法蔵館より刊行
日本橋三越本店にて「中村晋也展・日本の原風景・一茶の句に寄せて」を開催
三重県パラミタ・ミュージアムにて「祈りの造形・中村晋也展」を開催
文化勲章を受章

01 TOP NEWS
中村晋也副学長が文化勲章を受章

05 Special Feature
中山峰男学長が語る次代への進化

11 A laboratory review
工学部 建築学科・内丸研究室／芸術学部 美術学科・永田研究室

13 License Guidance
技能検定／バイオ技術者

14 The history of a professor
工学部 エコデザイン学科・片山拓朗教授

15 NEWS
第2回SOJOピエンナーレ
第1回崇城大学応用微生物研究所公開セミナー
松本教授が第2回実学的地域コンソーシアム講演会
医工連携を指向した新研究会を発足
上野教授が秋の叙勲「瑞宝中綬章」を受章
前田教授が英国王立薬学会から受賞
平山教授がシンクロロデキストリン学会賞を受賞

17 TOPICS
第62回県美展に今年も多数入選
炭焼きプロジェクト
日本航空宇宙学会西部支部講演会で講演
第60回電気系学会九州支部連合大会で発表
学生2名が熊本市より善行表彰
吹奏楽団が創立25周年記念の第18回定期演奏会を開催
英語学研修

18 SOJO as it is
中国・廣西師範大学との国際交流／崇城大学環境研究教育センター
Active graduate

19 株式会社 宮崎放送・常盤将弘さん
大同メタル工業 株式会社・幸島元彦さん

20 International exchange it
国際交流だより
Club's now
アイスホッケー部／写真部

21 Nature watching of campus
キャンパスの自然ウォッチング@45

22 Cooperation with region
地域との連携
SOJO college information
崇城大学専門学校からのお知らせ

2008年度 入学試験情報

自己推薦試験	実施学部	工学部 芸術学部 情報学部 生物生命学部
	願書受付期間	02月12日[火]～2月25日[月]
	試験日	03月03日[月]
	合格発表	03月07日[金]
一般試験	実施学部	全学部(航空整備士コースは専願試験)
	願書受付期間	01月07日[月]～01月25日[金]
	試験日	01月31日[木]02月01日[金]※試験日選択型 ※航空整備士コースは01月31日[木]のみ
	合格発表	02月10日[日]※薬学部は02月14日[木]
大学入試センター試験利用試験	実施学部	全学部
	願書受付期間	01月07日[月]～02月04日[月]
	試験日	本学独自試験は課さない
	合格発表	02月10日[日]※薬学部は02月14日[木]
後期	実施学部	全学部
	願書受付期間	02月18日[月]～03月10日[月]
	試験日	03月14日[金]
	合格発表	03月22日[土]



中山峰男学長が語る次代への進化

NEXT



■表紙アートは大学院修士課程芸術研究科・美術専攻洋画コース2年在学中の上野洋嗣(うへのひろつぐ)さんの作品「The study of sleep」。2006年の第8回「雪楽社フィレンツェ賞展」佳作入選を讃え、巻頭特集「中

山峰男学長が語る次代への進化」のインタビューを行った学長応接室に飾られている。同賞の大賞受賞者にはイタリア・フィレンツェ市への100日間の留学が与えられることもあり、上野さんも「今後もチャレンジを続ける」と意欲的。学長応接室を訪れる各界著名人へ、本学芸術教育の水準の高さをアピールしてくれている。



芸術学部の開設を機とした熊本工業大学から崇城大学への改称以来、情報学部、生物生命学部、薬学部を続々と開設するなど、5学部を擁する総合大学化を進めてきた本学。これら大学改革へ、強いリーダーシップを発揮してきた中山峰男学長が見つめる“NEXT”はなにか。今年度の航空整備士コース開設に続き、2008年度に予定されているパイロット養成コースの開設、2009年度に向けて議論・検討が始まった情報学部の学科再編など、中山峰男学長へのインタビューから、崇城大学“次代への進化”をレポートします。

2008年4月

工学部 宇宙航空システム工学科に パイロット養成コースを 開設

空港キャンパスを活かし 航空整備士コースを 今年度4月に開設

2001年、航空機やロケット等の開発系エンジニア養成を目的に設置された工学部・宇宙航空システム工学科。その特長のひとつは熊本空港に隣接する「空港キャンパス」を活用、実機にふれて行う技術教育にあります。しかし、日本の大学界唯一の空港キャンパスをさらに活かすべく、中山学長が「航空機の整備士養成をここで行うのも本学の使命」と考えたのも自然な流れ。以来、関係各庁に「航空整備士コースの設置」を打診し続けてきた本学。今年度（2007年）4月、「各航空会社が管理職クラスの現役整備士を志向してくれた」と学長が述べる教授陣と一期生32名を迎え、本学工学部・宇宙航空システム工学科に航空整備士コース（航空機整備訓練課程）が開設されました。

近い将来の操縦士不足へ パイロット養成コースを 2008年4月に開設

本学に航空整備士コースが開設された背景に、団塊世代の大量定年等に伴う整備士不足への予見があったのは事実ながら、「それはパイロットにおいても同様だった」と指摘する中山学長。実際、羽田の第4滑走路をはじめとする国内外空港の拡充や小型航空機の導入は便数の増加をもたらしており、試算された数年後の操縦士不足数は約400人。この現状を危惧した政府が、本学をふくむ「パイロットを養成し得る大学」を集めて会議を開いたのが2006年の7月。「航空整備士コースの開設準備に慌たしい状況下、“やります”と手を挙げるには勇気が必要だった。しかし、本学がさまざまな改革を進めてこれたのは、教職員一同がそのような勇気をもっていただけ。ここでリーダーが怯んではいけない。教育の社会還元を念頭に“崇城大学はパイロット養成コースの設置に応じる”と即答したのです」。笑顔で昨夏の決断を振り返る中山学長。それから約21か月後の2008年4月、本学工学部・宇宙航空システム工学科は「パイロット養成コース」の開設を迎えます。

●キャンパスで学生と談笑する中山峰男学長。創立者である中山義崇前学長の急逝時、「理事長職は継いでも学長に就くとは思っていなかった」ながら即座に85項目の大学改革マニフェストを発表。各項目の達成を全教職員がチェックし得る体制を整備し“学内の風向きを変えた”ことについて「私には前学長のようなカリスマ性がないからねえ」と笑顔で謙遜されるなど、各界から「大学の学長とは思えない」と称される気さくさは、約9年間の企業勤務で培った“思いやりの精神”がベース。



自家用免許の取得はもとより プロフェッショナルな事業用免許が 4年間で取得できるカリキュラムを

航空機を操縦するための免許は、プライベート飛行のための自家用とビジネス飛行のための事業用の2種類。自家用免許の取得には40時間以上の飛行訓練が課せられており、事業用免許は200時間以上。2008年4月のコース開設を予定する他の3大学が“操縦士養成”をカリキュラム化するであろう現在、本学がめざすのも同様なものかどうか。「本学空港キャンパスは、かつて航空会社のパイロット養成施設だった。また、操縦士養成教官の資格をもつ東碩美教官も3年前から空港キャンパスに常勤してくれている。航空機の所有をふくめ、これら利点を最大限に活かせば……」と語る中山学長。続いた「これまでも本学は課外プログラムながら、東教官がパイロット養成に取り組んできており、在学中に自家用免許を取得した学生もいる。コース開設にあたっては、実習用航空機の新規導入も予定している。他の養成機関とも連携し、4年間で事業用免許が取得できるカリキュラムを構築したい」の言葉こそ、プロフェッショナルの育成を理念としてきた本学ならではの意気込みといえるでしょう。

パイロット養成コース生との 新たな出会いや切磋琢磨は すべての崇城大生の糧となる

「パイロットがめざせる魅力は大きく、これまでとは異なる個性や能力、学力をもつ学生で当コースは構成されると思う。しかしパイロット養成コース生も本学工学部の一員。宇宙航空システム工学科の科目はもちろん、外国語をはじめとする総合教育科目は、他学科生とも机を並べて履修する。ここに生じる新たな出会いや切磋琢磨は、すべての崇城大生の糧となる。パイロット養成コースがもたらすであろうメリットを全学生が享受してほしい」。常に“NEXT”を見つめる中山学長にとって、パイロット養成コースの開設は、崇城大学がめざす“次代への進化”のあらわれ。学長就任以来の“チャレンジ&チェンジ”は止むことなく、2009年度の情報学部・学科再編へと続きます（次ページ）。



●「会社から労働組合の副支部長に任命され、工場で働く方々と膝突き合わせ、酒を酌み交わし、夜ごとに語り合ったあの頃の経験が今に活かしているのは事実」。1971年に熊本大学・機械工学科を卒業、積水化学入社時を振り返られた中山峰男学長。その後9年間の同社勤務を経て学校法人「君が淵学園」に入職。法人局長などを経て2003年に学長および理事長に就任。趣味は司馬遼太郎や井上靖といった歴史小説の読書とゴルフ。現在60歳。職員からプレゼントされた“エルメス”のネクタイが似合うダンディさは学内随一と評判。





2009年度 情報学部3学科を 1学科4コースへ 再編の

(予定)

若者の起業を可能にする 大学のIT技術者養成教育が 日本のモノづくりを救う

「日本の屋台骨であるモノづくりの場が、中国をはじめとするアジアの各国・地域に移行し続けていることに危機感を覚える。携帯電話の世界トップブランドが“Made in Japan”じゃないなんて、かつてなら考えられないことです。この現状を打破するのは、アメリカに興った若きベンチャーによる起業であり、それを可能とした大学教育の強化・充実にあると考えた中山峰男学長。同時に、その最たるモデルが「カリフォルニアにシリコンバレーをもたらしたスタンフォード大学にある」と着目。日本のモノづくりを再活性化するためにも「全世界を席巻するアップル社やグーグル社の創始者を育てた同大学のような先端IT技術者養成教育を本学で展開したい」との目標をもって2005年に開設された情報学部。当時は“遠い夢”と思われた目標ながら、一歩ずつの前進を重ねてきた今、中山学長は「前進を加速すべき時期が来た」と判断。2009年度の実施に向けて、情報学部3学科の再編に関する議論・検討が開始されました。

ソニーの元副社長である 中村末廣副学長が示唆した 市場発想の再編コンセプト

情報学部3学科を再編する議論・検討のリーダーはソニーの元副社長であり、2007年1月に着任された中村末廣副学長。その着任時、「ソニーの製品と同様、付加価値ある学生づくりを次なる私の使命と考えている」と述べられた中村副学長へ、中山学長が期待されたのは「議論・検討の“起爆剤”になっていただくこと」とは、「英国工場の収益力を大幅に向上させるなど、ソニーでの実績は素晴らしいながら、学科の再編に力量が発揮いただけるのかどうか」未知数だったのも事実。しかし、企業出身の教員を含む再編プロジェクトチームへ“市場発想”のコンセプトを示唆、ソニーの人材育成プログラムをベースとしたアイデアを加えて構想された再編案の完成度は高く、中山学長も「期待を大きく上回る手応えを感じる」とのこと。情報学部3学科を“1学科4コース”に再編するという方向性が確認され、議論・検討は次のステップに移ります。

情報を活かす・創る・司る・動かす 次代が求める4領域に即応した 4コース体制の“情報学科”

中村副学長と再編プロジェクトチームによる再編案の骨子は「情報学部・情報学科に“情報を活かす”技術を身につけるソフトウェアサイエンスコース、“情報を創る”技術を身につけるメディアサイエンスコース、“情報を司る”技術を身につける情報エレクトロニクスコース、“情報を動かす”技術を身につけるロボティクスコース(各仮称)を設置する」というもの(右図参照)。これらはマーケティング発想をベースとした“次代が求める”4領域であり、2年次にコース選択した学生は3年間の学びから先端的IT技術者として“自分にふさわしい専門性”を発見・修得、社会に巣立っていくという仕組み。また、中村副学長のソニー人脈を活かした情報系トップ企業からの講師派遣やインターンシップ、芸術学部デザイン学科生との共同開発実習など、本学ならではのコラボレーションも構想。中山学長も「ビジネスとアートの双方向に強いクリエイティブなIT人材を育成していけるだろう」と自負。しかし「2009年度の新・情報学科の“始動”は、あくまで崇城大学がめざす“次代への進化”のひとつ」とも述べられた中山学長。その視線の先にあるのは「日本が抱える最大の問題のひとつである“地域間格差”の解決モデルとなる“熊本・再活性”へ、若きベンチャーの輩出によって貢献する」とことにあるようです。

新・情報学科に設置される4コースのイメージ

<p>“情報を活かす”技術を身につけ SEやプログラマーをめざす</p> <p>ソフトウェアサイエンスコース</p> <p>技術教育のコア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゲームプログラミング ●JAVAプログラミング ●オブジェクト指向プログラミング ●SE・システムアナリスト ●経済情報システム 	<p>“情報を創る”技術を身につけ CGや音楽などのアート系ソフト開発者をめざす</p> <p>メディアサイエンスコース</p> <p>技術教育のコア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータグラフィックス ●画像・映像処理 ●バーチャルリアリティ ●音声認識・音声合成 ●ヒューマンインターフェイス
<p>共同開発実習など 芸術学部デザイン学科とのコラボレーション</p> <p>ゲーム機・ロボット・ICカード・脳科学など 情報系トップ企業とのコラボレーション</p>	
<p>“情報を司る”技術を身につけ 電子工学(LSI・IC)企業での活躍をめざす</p> <p>情報エレクトロニクスコース</p> <p>技術教育のコア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユビキタスネットワーク ●情報通信工学 ●デジタル工学 ●無線LAN ●携帯電話テクノロジー 	<p>“情報を動かす”技術を身につけ 人工知能やICチップの開発系エンジニアをめざす</p> <p>ロボティクスコース</p> <p>技術教育のコア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロボット製作 ●センサー技術 ●人工知能システム ●ヒューマノイドロボット ●メカトロニクス



崇城大学 副学長
中村 末廣

●「SONYからソニー中村研究所を経て、私は崇城大学の副学長となりました。この新しい仕事を私は、SONYで培った“モノづくり”のノウハウを、いかにして“人づくり”に活かすか、であると考えています。となると気になるのは“付加価値”です。学生の付加価値を、過言を承知で説明するなら“就いた仕事を通じてもたらす社会利益と収入の差額”であり、その差額を社会が適正以上と認めるかどうか、製造責任者の一人である私も厳しく問われることでしょう。これは2007年1月の就任直前、本学広報課スタッフのインタビューにこたえられた中村副学長の談(一部)。そのキャリアは1959年のソニー入社から始まり、英国「SONY UK limited」にてテレビ受像機を製造するブリジント工場の収益力を大幅に高めることに成功。テレビ事業本部長から執行役員副社長まで歴任。著書の帯に記された“ソニーの遺伝子を受け継ぐ「創造」の伝道師」として、今回の情報学部・学科再編をはじめとする大学改革に尽力中。



崇城大学創立40周年感謝の夕べ ～未来に向かって地域とスクラム～

topics

- “次代への進化”をめざした数々のプロジェクトが進展した2007年、崇城大学は創立40周年を迎えました。この40年を振り返りつつ、これまで本学をご支援ご協力をいただいた教育関係、地元関係各位への感謝の気持ちを込めて「崇城大学創立40周年感謝の夕べ～未来に向かって地域とスクラム」が去る11月1日、ホテル日航熊本にて開催されました。
- 来賓としてお招きした潮谷義子熊本県知事ははじめ、出席者は約700名。中山学長の謝辞に続き、潮谷知事からは「崇城大にはユニバーサルデザイン領域での協力など、多数のプロジェクトに参画してもらっています。今後も地域に欠かせない、存在感ある大学としての発展を願っています」という祝辞を頂戴しました。
- 祝宴の始まりは熊本学園大学・北古賀勝幸理事長の乾杯。芸術学部が制作した「崇城大学40周年の歩み」ビデオ上映、崇城大学吹奏楽団による演奏、芸術学部デザイン学科・宇佐美陽一教授によるオイリュトミーでは同学科2年次生の前田涼子さんがピアノ伴奏を担当。ジェンベ同好会の演奏舞演の後、中村末廣副学長のご挨拶にて閉会。出席の皆さまには、各テーブルに飾った芸術学部デザイン学科生制作の「山鹿灯籠」をお持ち帰りいただきました。

「人間の心と建築の関わり」と「まちづくり」について 学生や地域と一緒に実践的に研究



Uchimaru Laboratory

工学部
建築学科
内丸研究室
指導教員/内丸恵一講師(工学修士)
専門分野/建築論・建築計画



内丸講師



大学院 修士課程
建設システム開発工学専攻1年次生
松村 賢治さん
長崎県・西陵高校出身

- 研究のテーマはふたつあります。ひとつは「人間の心と建築の関わり」についての研究。もうひとつは「まちづくり」に関する研究です。
- 「人間の心と建築の関わり」については、3歳～7歳の幼・少年期の子どもが、家具や積み木などを使って住宅や基地などを作る遊びを分析することによって、人間の心の内側で、建築がどのように始まるのかを解明しようとするものです。幼い子どもが母親から精神的に独立していく内面的な過程と、彼らがつくる建築(住宅や町など)が変化し展開する過程との間に、有意な関係性があることを見いだしました。
- 「まちづくり」は、さまざまな地域で学生達とともにおこなう実践的な活動をベースにしています。熊本市の「みずあかり」や「本妙寺桜灯籠」、山鹿市の「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」などは、それぞれ第1回目から基本的なアイデアと全体構想、メインオブジェの作成などを行ってきました。そこで大切にしているのは、我々の制作活動がまちづくりにいかに役立ちうるかということです。大分県臼杵市で11年間、「うすき竹宵(たけよひ)」に関わりながら、竹宵を契機に町が活性化し、住民の生活が変わっていく過程を記録してきました。竹宵で得たまちづくりの方法のうち、何が一般性をもちうるのか、現在検証中です。

内丸恵一講師および研究室 この1年の主な活動

- 「うすき竹宵」美術コーディネートおよびメインオブジェの作成(大分県臼杵市)
- 「みずあかり」美術監修およびメインオブジェの作成(熊本市)
- 「本妙寺桜灯籠」メインオブジェの作成(熊本市)
- 「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」美術コーディネートおよびメインオブジェの作成(熊本県山鹿市)
- 「熊本の火まつり」に関するオブジェと展示(全国知事会議・びぶれず会場)
- 「山鹿灯籠まつり」での千人灯籠おどりで中央ステージのデザインと制作
- 「熊本駅周辺整備に関するシンポジウム」講師
- 「町おこしシンポジウム～文化系・芸術工学系を交えた広域産学官連携による実質的まちづくりの推進」講師
- 「日本建築学会設計競技」3年連続('05～'07)九州支部入選 '06は全国入選・佳作



○竹の加工をする学生たち



○「うすき竹宵」下屋敷のオブジェ



○「うすき竹宵」旧・真光寺のオブジェ



○「みずあかり」での内丸研の学生たち

学生に きく

この研究室で あなたがやっている研究は？

● 江戸時代における遊廊建築を研究することにより、江戸日本人文化の特質である粋(いき)が建築空間としてどのように現れてくるのか明らかにする。

内丸研究室の活動から思うことは？

● 「まちづくり」活動そのものは、その地域に住む人々が行うべきなのですが、建築的見解と建築的技術を用いてまちに対して様々なアプローチをしていくのが建築を研究する者の仕事です。その関係性が難しく、熊本の「桜灯籠」や「みずあかり」については、市民の方々に「まちづくり活動ではなくイベント」といった感が広まってしまっているような印象を受けます。一方、「うすき竹宵」を行う大分県の臼杵市ではまちの人々の意識が少しちがいます。とにかく「美しくつくる」ことへの共通認識ができていて、僕たちへも「失敗してもいいが全力を出しきることが重要」といった言葉をかけてくださいます。こういう時「内丸研究室で活動してよかかったなあ」と感じます。

研究室の雰囲気は？

● 内丸研究室には「よく寝て・よく食べて・よく働く」雰囲気があります(よく学ぶ雰囲気もあります)。みんな個性的です。食べ物でいうと「ドリアン」とか「くさや」みたいなあかく強い人が多いです。

内丸講師はどんな先生？

● 忘れっぽいところがありますが(先生ごめんなさい)、とにかく「ものをつくる」ことに対する思いがすごい。常に熱い情熱を感じます。

Nagata Laboratory



永田准教授

芸術学部
美術学科(芸術文化コース)
永田研究室

指導教員/永田准教授(文学博士)

研究テーマ/古代～中世のインド美術史(仏教・ヒンドゥー教)の研究/
インドの石窟寺院(仏教・ヒンドゥー教)の尊像および石窟空間に関する研究/
インドの民間信仰と造形に関する研究



古代インドの人々は聖なる空間に 現れた仏陀やヒンドゥー教の神々を見ることで その存在を体験した

● 芸術・美術を理解することは人類がこれまで培ってきた文化を知ることです。美術学科の芸術文化コースは「芸術とは何か」について、実際の遺跡(寺院や聖堂を含む)・作品を徹底して観察し、またそれを生み出した人間(作り手たち)や社会、さらには文化・思想などを通して、「芸術とは何か」を探っていくことが研究テーマの一つとなります。すなわち、芸術文化コースの領域である芸術学・美術史とは、人類の創造の痕跡を探っていく、それを後世に伝え、守る手助けをする学問と言えるでしょう。



● 芸術・美術と言っても多種・多様ですが、南アジア、インドの美術を中心に研究しています。インドという仏教を連想する人が多いと思いますが、確かにインドは仏教の故郷です。しかし、インドには仏教以外にも、ヒンドゥー教、ジャイナ教、イスラームなどの宗教があり、現在、仏教・ヒンドゥー教の美術の調査・研究を行っています。古代インドの人々が寺院という聖なる空間に参って、視覚的に現れた仏陀やヒンドゥー教の神々を見ることで如何にその存在を体験したかについて、建築、彫刻、絵画(壁画)を通して研究しています。まさにその体験の場が寺院であり、彫刻・絵画は聖なる空間を演出する装置・仕掛けとなる訳です。

永田准教授 この1年の主な活動

- 世界遺産アジャンター石窟の調査・研究を継続中。
- インド初期のヒンドゥー教美術(南インド、A.D.4～5世紀)の研究
- インド仏教石窟寺院の本尊仏陀像の脇侍像および守門像の研究(論文:西デカン地方の後期仏教石窟における仏殿本尊脇侍像・守門像について)
- 南インドの仏伝図像研究(論文:南インド・アーンドラ地方におけるヤクシャ信仰の側面～仏伝説話図にみるヤクシャ信仰の影響について～)



学生に きく



芸術学部・美術学科
芸術文化コース1年次生
松田 咲也子さん
熊本県・第二高校出身

この研究室を選んだ理由は？

● 高校では美術科に所属し、油絵や水彩など実際に作品を制作していました。そのなかで、作品の成り立ちや背景に興味をもったのがきっかけです。

永田准教授の研究については？

● インド美術は、私が今まで何も知らなかった分野でした。なので先生の研究の話は毎回、驚きと発見があってすごくおもしろいです。特にインドの石窟寺院の話など、感銘をうけることがたくさんあります。

研究室の雰囲気は？

● 永田先生と学生の距離がすごく近いです。和気あいあいとしていて、楽しい研究室です。美術館のボランティア活動など、研究室で学んだことを学校外の活動にも役立てています。

永田准教授はどんな先生？

● どんな質問にも優しく、本質について教えてくれる先生です。名古屋から来られた先生なので、熊本で受けられた「カルチャーショック」の話が印象的でした(笑)。

崇城大学で取得がめざせる資格 その内容やバックアップ体制をご紹介します



技能検定

機械加工業務「10年以上従事」レベルといわれる
普通旋盤2級に天沼賢志*さんが合格!!

*大学院修士課程機械工学専攻2年次生

普通旋盤3級にも11名が合格!!

●技能検定は「働く人々の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度」で、技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき昭和34年より実施されています。

●現在は129職種について実施され、技能検定の合格者は平成18年度までに296万人を超え、確かな技能の証として各職場において高く評価されています。

●その中で、機械加工・普通旋盤2級の技術レベルは、機械加工業務に10年ほど従事して得られるレベルと考えられています。

<本学の取り組み>

●本学では129職種の内、「機械加工」において25作業ある中の旋盤作業やフライス盤作業を中心に、機械工学科及び機械工作センターが一丸となってサポートを行っています。

●機械工学科では、1年次に「機械工作実習I,II」が実習科目として開講され、受講者は旋盤加工をはじめ種々の工作機械にふれることで、基礎的な作業からその応用まで学んでいます。

●さらに、技能検定対策として受験希望者は、機械工作センター技術指導員及び機械工学科教員によるマンツーマンでの熱心な指導（講義時間外に、実技指導と学科対策講義を集中講義的に実施）を受け、受験に臨んでいます。

●今年度は12名の学生が合格しました。

平成19年度合格者

<普通旋盤2級>

大学院 修士課程 機械工学専攻
2年次生/天沼賢志さん(福岡県・筑陽学園高校出身)

<普通旋盤3級>

工学部 機械工学科
1年次生/坂本秀人くん(高知県・高知工業高校出身)
2年次生/古賀友章くん(福岡県・山門高校出身)
2年次生/佐藤真一くん(佐賀県・龍谷高校出身)
2年次生/塚本智也くん(熊本県・御船高校出身)
3年次生/阿部友紀彦くん(宮崎南高校出身)
3年次生/後藤幸成くん(熊本県・苓洋高校出身)
3年次生/坂本竜也くん(長崎県・長崎日本大学高校出身)
3年次生/志賀政浩くん(山口県・野田学園高校出身)
3年次生/古澤佑馬くん(熊本県・玉名工業高校出身)
4年次生/佐々木猛くん(山口県・小野田工業高校出身)

合格者推移

平成15年度/9名	普通旋盤3級/7名	機械検査3級/2名
平成16年度/8名	普通旋盤3級/8名	
平成17年度/28名	普通旋盤2級1名(県内初)	普通旋盤3級/26名 機械検査3級/1名
平成18年度/17名	フライス3級/1名	普通旋盤2級/1名 普通旋盤3級/15名
平成19年度/12名	普通旋盤2級/1名	普通旋盤3級/11名

今年度の認定試験では 上級20名・中級64名が合格!!

●バイオ技術者とは、バイオ技術の進歩に応じて専門技術や知識を持ち(中級)、さらに指導的立場で実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者(上級)。その能力を判定する試験として「バイオ技術者認定試験」があります。

●大学生を対象としているのは「中級」と「上級」。中級は機器、生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学の利用技術やこれらを行うための安全性に関する知識を認定するもの。上級は、核酸・タンパク質、安全管理、機器に関する生物利用技術、微生物・動物・植物バイオテクノロジーを中心に様々な技術と知識を持ち、実際にバイオテクノロジーに応用する資質を認定するもの。活躍の場は主に、バイオテクノロジー関連企業、製薬、食品、化粧品、環境、化学メーカー及び公的または私的研究機関などです。



バイオ技術者

<本学の取り組み>

●生物生命学部・応用微生物工学科では1年次から3年次までの大半のカリキュラムに関連する項目があります。特に3年次後期に「バイオテクノロジー総論I」および「バイオテクノロジー総論II」の単位を取ることで、1年次から3年次までのバイオテクノロジー、すなわちバイオ技術者になるための総復習(18名の教員が分担)ができる体制となっています。

●また、生物生命学部・応用生命科学科でも1年次からこの試験に関連した科目がありますが、特に、3年次後期には上級の対策講座を「特別講義II」として開講しています。

合格者推移

平成17年度/30名	上級13名	中級17名
平成18年度/75名	上級23名	中級52名
平成19年度/84名	上級20名	中級64名



The history of a professor

教授に歴史あり……シリーズ④

船乗り・造船・橋梁設計……
志望は変わっても一貫していたのは
「記憶に残る仕事がしたい」という思い

高校時代 ラグビーに熱中したが
ボロ負け続きで体もボロボロ(笑)

●高校ではラグビーに熱中。新設校の一期生であり、私も含めて7人で創部しました。2年生の時にようやくメンバーが揃い、公式戦に出たもののボロ負けで体もボロボロ(笑)。公式戦3戦目で創部以来の初トライをしたけれど、試合はやはりボロ負け。初トライはうれしかったけれど、実はゴールキックの練習をしていなかったで……ブレスキックの仕方が分かりませんでした(トホホ)。それにしても、相手を走って抜いたときの爽快感と一発のタックルで倒したときの充実感は、今なお忘れられませんね。



大学時代 成績「蚊(可)取り線香」の私でしたが
勉強をしなかった反動から
振動の勉強がはたくなって大学院へ

●実は「船乗り」を志望していたのですが、なにかとあって選んだのが「大きな仕事ができそう」と思った土木工学科(熊本大学工学部)。とはいえ勉強には身が入らず、パチンコやマージャン、飲み屋のバイト等々に精を出しすぎて見事に留年(トホホ)。卒業時の単位数は卒業要件ジャストでした。卒業後10年ぐらいは「1単位足りない!」の夢を見ました(これが私のトラウマ)。そんな成績「蚊(可)取り線香」の私でしたが(笑)、勉強をしなかった反動でしょう。なぜか振動の勉強がはたくなって大学院に進学しました。



企業時代 学位の取得や論文賞の受賞など
育ててくれた会社に感謝!!

●大学院の修了後、造船会社(佐世保重工業)に就職したのは「海への憧れ」が忘れられなかったから。それで、造船部門への配属を志願したのですが、熊本大学土木工学科の先輩に引っ張られ、配属されたのは橋梁部門。



●配属されるまで橋梁に興味はなかったのですが、取り組んでみるとおもしろい。大学院で研究した振動対策が重要になる、大きな橋の設計をしてみたいと思うようになっていきました。

●その頃、会社から熊本大学に派遣される機会を得て博士(学術)の学位を取得しました。また、学位とは別に進めていた振動に関する研究「残差ベクトルを用いた固有値問題の部分空間解法」で日本応用数学会論文賞(実用部門)を受賞しました。それらの原動力となったのは「記憶に残る仕事がしたい」という思い。会社を辞めて大学に来たのも、その延長です(会社は私を育ててくれましたが私は恩返しをしていません……心残りです)。

工学部 エコデザイン学科
片山 拓朗教授
博士(学術)

プロフィール ●1959年2月6日、熊本県八代郡鏡町生まれの水産座で血液型はA型。熊本県立氷川高等学校から熊本大学工学部土木工学科に進学。熊本大学工学部大学院・工学研究科土木工学専攻を修了。佐世保重工業株式会社勤務を経て、1998年に崇城大学へ。2005年4月から崇城大学・工学部教授。専門は振動・耐震工学、数値計算、エコジカルデザイン。

現在 研究が進んでいるのはよいけれど
釣りに行けないのが少々不満

●研究は現在、振動・耐震工学、並列計算、エコジカルデザインの三つで進めています。耐震工学関連では最近進展がありました。長周期化と高減衰化により高層ビルディングの耐震性能を向上させる新しい架構法のアイデアを数値実験と模型実験で確認できたからです。研究成果は論文誌に投稿中です。

●エコジカルデザインでは特許出願中の「生物用通路付ブロック」による護岸工法について、企業と共同研究を行っています。大学のテニスコートの西側の斜面で動物実験を行っていますので、興味がある人は見に来てください。但し餌は与えないこと!!(私はチヌとクロ釣りが好きです)



学生 コツコツやれば
やがて花咲く春が来る

●勉強も遊びも中途半端は良くないと思います。但し、遊びも自分の将来につながるのであれば良いのですが……将来を忘れて熱中してはいけません。素晴らしい人生が待っているのですから、好きなことを忘れずにコツコツやっていると、やがては花咲く春が来る。私はそう信じています。



第2回「SOJOビエンナーレ2007」 グランプリに熊本県立第二高校3年生の 西川有吾くん

本学が九州の高校生の若い感性や才能を援助・育成し、新しい文化の創造と発信の場をつくりあげることをめざして立ち上げたコンテスト第2回「SOJOビエンナーレ2007」が開催された。271点の応募の中から各受賞者が選ばれ、12月1日に本学芸術学部視聴覚センターで表彰式が行われた。グランプリ、準グランプリ受賞者へは副賞（ヨーロッパ研修旅行）の目録が手渡された。11月27日から12月2日には本展を本学ギャラリー及び県立美術館分館で、12月5日から25日には選抜展を本学ギャラリーで開催した。



グランプリ
西川有吾くん(熊本県立第二高校3年生)の作品
「街」



準グランプリ
柳田夢さん(福岡県立太宰府高校2年生)の作品
「それぞれの努力」

応用微生物研究所が 第1回「崇城大学応用微生物研究所公開セミナー」を開催

本学ではさらなる応用微生物学領域の研究教育推進のため、平成17年に生物生命学部応用微生物工学科を母体とした応用微生物研究所を設置。有用微生物探索系の理論的構築を目標に、自然界に存在する限りなく多様な微生物を新たな視点から開拓する研究に取り組んでおり、9月13日に同研究所が第1回「崇城大学応用微生物研究所公開セミナー」を開催した。

セミナーでは別府輝彦氏(東京大学名誉教授・日本大学生物資源科学部教授)が「見えない生物を見る」、清水昌氏(京都大学大学院農学研究科教授)が「ユニークな微生物機能の探索・開発と産業への利用」と題して記念講演を行い、応用微生物研究の将来性を熱く説いた。参加者は約200名。終了後、同研究所の見学も開催した。



生物生命学部応用生命科学科・松本教授が 第2回「実学的地域コンソーシアム講演会」を開催



大学院・応用生命科学専攻では上岡専攻主任が中心となって、「SOJOライフサイエンス研究所構想」を基盤とした「国際的視野から地域に貢献できる生命科学の実学的リーダーの育成」を目指している。この実学的生命科学人材育成プログラムは学長の教育理念の一つでもあり、その一環として11月22日、本学学術講演会場で第2回実学的地域コンソーシアム講演会「地球とヒトにやさしいサイエンスと男女共同参画」が開催された。男女共同参画は、国が進めている重要政策の一つであり、応用生命科学科の松本陽子教授は「化学工学会男女共同参画委員会委員長(化学工学会理事)に就任している。特別講演は、前内閣府総合科学技術会議議員の黒田玲子氏(東京大学教授)による「自然科学系分野での女性の活躍のために」。会場に参加した多くの女子学生に大きな感動を与えた。またパネル討論会では、松本教授がコーディネーターを務め、山懸ゆり子氏(熊本大学教授)、米谷芳枝氏(星薬科大学教授)、平林加寿子氏(日本新薬部長)、大久保達也氏(東京大学教授)、岩原正宜氏(本学生物生命学部長)らから様々な提言がなされた。会場からの質疑応答も活発で大変盛会であった。

工学部ナノサイエンス学科・八田教授が 医工連携を指向した新研究会を発足

本学工学部ナノサイエンス学科・八田泰三教授の呼びかけで8月20日、九州大学筑紫キャンパスにおいて、有機合成化学とナノバイオケミストリーを専門とする工学系研究グループおよび発生学・解剖学や形態分析等を専門とする医学・バイオ系研究グループとの「医工連携」をキーワードにした情報交換会を開催した。本会は九州産業大学准教授・IST代表取締役社長の磯部信一郎氏と共同で企画・運営するものであり、新素材を創出して生命現象の解明と未来医療技術を開発することを目的としている。

今回は工学系として崇城大学、九州産業大学、International Science Technology (IST)、医学・バイオ系として九州大学(医)、久留米大学(医)、島根大学(医)、島根県立大学、金沢医科大学(医)からの参加があり、研究紹介と問題提起を行い、活発な意見交換が交わされた。



情報学部長・上野教授が 秋の叙勲「瑞宝中綬章」を受章

本学情報学部長の上野文男教授が平成19年・秋の叙勲により「瑞宝中綬章」を受章された。以下、ご本人のコメントを紹介。「瑞宝中綬章は生存者叙勲と申しまして、公務に就き、70歳から80歳くらいまで長生きしている方に送られている章です。私の場合、最後に退官した熊本電波高専校長の肩書きで発表されています。高専では、短大相当の準学士の課程から大学相当の学士号を取れる専攻科の設置に教職員一丸となって頑張り、設置から7年で30余名の博士号を揃えて申請することができるようになりました。それが、専攻科の実現につながり、その成果を認められたものと思っています。皆様のお陰です。これまで、よくも健康で長生きしてくれたという意味でのご褒美を下さったものと思って頂きました。」



薬学部薬学科・前田教授が英国王立薬学会 「Life Time Achievement Award」を受賞

薬学部の前田浩教授が、薬物送達理論に基づく新しい抗がん剤の臨床開発研究が高く評価され、英国王立薬学会の2007年度「Life Time Achievement Award」を受賞された。受賞講演はマンチェスターで開催された「The British Pharmaceutical Conference & Exhibition」において、「EPR-effect, and its mechanism, and further extension towards more tumor selective cancer therapy」というタイトルで9月11日に行なわれた。



薬学部薬学科・平山教授が シクロデキストリン学会賞を受賞

薬学部の平山文俊教授が、薬物放出制御用素材としてのシクロデキストリン誘導体の構築と評価に関する研究業績に対して、平成19年度シクロデキストリン学会賞を受賞された。受賞講演は9月11日に鳥取市で開催された第25回「シクロデキストリンシンポジウム」において行われた。

Photo Scrap*



第62回 県美展に今年も多数入賞

県美展は熊本県の美術文化の発展・振興のために60年前に発足。その後、後進の育成を軸に活動を続け、県内で活躍する多くの作家を輩出してきた展覧会である。本学の学生においてもこれまでに二度の「県美大賞」を含む数々の受賞者や来年度からは会員として審査に加わる卒業生を輩出しており、熊本県の美術界に貢献してきた。今年度も数名の受賞者・入選者があり熊本県内で今後の活動がさらに期待されている。



熊本市賞
修士2年次生
中国ゆう子さんの作品
「イン・ザ・ルーム」

- <入賞・入選者 日本画>
- 熊本市賞 / 修士2年次生 中国ゆう子さん(熊本県・第二高校出身)
 - 奨励賞 / 4年次生 西田真由美さん(熊本県・鹿本高校出身)
 - 4年次生 管林更紗さん(熊本県・必由館高校出身)
 - 会員推挙 / 博士2年次生 一木恵理さん(熊本県・玉名高校出身)
 - 初入選 / 修士2年次生 上野絵里さん(熊本県・南関高校出身)
 - 入選 / 修士1年次生 川口恵さん(熊本県・熊本北高校出身)
 - 4年次生 緒方裕和くん(熊本県・文徳高校出身)
- <入賞・入選者 彫刻>
- 入選 / 修士2年次生 東耕平さん(熊本県・熊本工業高校出身)

情報学部・電子情報ネットワーク学科の学生3名が第60回「電気系学会九州支部連合大会」にて発表

電子情報ネットワーク学科の学生3名が9月18日と19日の両日、沖縄琉球大学で行われた第60回「電気系学会九州支部連合大会」にて研究発表を行った。当日参加された他大学の先生、企業の方々と熱い質疑応答が行われた。



- <発表者および題目>
- 4年次生 兼子喬くん(佐賀県・伊万里商業高校出身)
同軸交差コリニアアンテナの基礎研究-I「基本周波数の変移について」
 - 4年次生 新村日出海さん(熊本県・水俣高校出身)
同軸交差コリニアアンテナの基礎研究-II「可変長器による素子数と周波数の変移」
 - 夜間コース1年次生 夏目幸治さん(熊本県・翔陽高校出身)
電磁誘導法によるワイヤーロープの探傷実験システム

工学部エコデザイン学科が学生を中心に「炭焼きプロジェクト」を展開

竹は管理されないと森林に広がり、種の多様性を損なう原因となるが、木に比べて簡単に炭焼きができる材料として優れ、供給量も豊富にある。エコデザイン学科では竹と環境をテーマに「炭焼きプロジェクト」を展開しており、竹炭を水質浄化や土壌改良などに活用し、その有効性を検証している。こうした活動は学生が中心の取り組みであり、1年生の環境活動体験の一環として、またエコデザイン学科学生を中心とするサークル「エコアクティブ」の活動対象にもなっている。活動を体験だけで終わらせることなく「全国大学生環境活動コンテスト」通称「エココン」に参加し活動発表も行っている。今年に入賞をめている。



学生2人が熊本市より善行賞表彰を受賞

11月14日に熊本市産業文化会館7階大ホールで行われた第26回「熊本市青少年健全育成大会」において、工学部機械工学科2年次生・立石一航くん(鹿児島県・鹿児島高校出身)と情報学部ソフトウェアサイエンス学科2年次生・富高麟太郎くん(大分県・日本文理大学付属高校出身)が、「青少年善行表彰」として熊本市より表彰された。これは平成18年10月18日に車内で急病となったタクシー運転手を救助したことによる表彰。なお、平成19年3月には崇城大学善行賞も受賞している。



- 立石一航くん(写真左)偶然その場にいただけですが、行動できてよかったと思います。
- 富高麟太郎くん(写真右)困っている人がいたら助けるのは当然ですが、実際にその場に居合わせたら思っているように体は動いてくれません。今回は助けることができて良かったと思います。

大学院・宇宙航空システム工学専攻生等が日本航空宇宙学会西部支部講演会で講演

11月16日、日本航空宇宙学会西部支部講演会が熊本大学で開催された。一般学術講演およびオーガナイズドセッションで計66件の発表が行われ、本学では工学部宇宙航空システム工学学科の金澤康次准教授と千馬浩充助教、大学院生3名、および大学院修了生の中川浩行さんの計6名が講演を行った。大学院2年生の鈴木さんと1年生の久保さんは初めての講演発表であり、「とても良い経験になった。この経験を生かしてこれからもっと頑張りたい」と感想を語ってくれた。また、大学院2年生の大上さんは現在JAXA(宇宙航空研究開発機構)特別共同利用研究員として、宇宙科学研究本部(神奈川県相模原市)に常駐している。



- <写真は左から>
- 修士2年次生 鈴木崇芳さん(北海道・岩見沢緑陵高校出身)
 - 修士2年次生 大上美帆さん(大阪府・今宮高校出身)
 - 修士1次生 久保あゆみさん(熊本県・真和高校出身)
 - 大学院修了生(平成19年修了) 中川浩行さん(中央エンジニアリング勤務/熊本県・翔陽高校出身)

校友会体育委員会 吹奏楽団が創立25周年記念・第18回定期演奏会を開催



9月24日、熊本県立劇場コンサートホールで校友会体育委員会・吹奏楽団の第18回定期演奏会が開催された。創立25周年の記念演奏会である今回は、吹奏楽団OB・OGをはじめ「文徳中・高等学校吹奏楽部」や「楽友会くまもと吹奏楽団」などに加え、「コール・ムッターおむた・たいめい」などの3合唱団にも友情出演いただき、盛大に開催された。



- 吹奏楽団団長・立石真理さん/情報学部電子情報ネットワーク学科3年次生(福岡県・大牟田高校出身)3年次最後の定期演奏会を無事成功に収めることができ、今までの練習の成果が出てとても嬉しかった。参加いただいた皆様とは定期演奏会が終わった後も、他の演奏会で競演させていただいております。音楽を通してこの交流がいつまでも続いたらと願っています。

SOJO as it is

中国・廣西師範大学から交換留学生11名と教員2名が来学

- 崇城大学では、学生・教職員の国際交流や学術研究などの交流を盛んにするため、海外諸大学との姉妹校提携を積極的に進めている。その中でも中国・廣西師範大学とは、芸術学部を中心とした交流が活発に行われている。
- 廣西師範大学との交流は平成16年5月、大学間交流協定を締結したことに始まった。これまで両大学においては毎年2年間の短期交換留学を行ってきた。さらに、今年度より廣西師範大学から1年間の留学生(2名)を受け入れた。
- 去る10月20日から11月2日の間には、平成19年度の訪日交換留学生11名が来学。本学授業への参加、天草研修所に宿泊しての本学学生との交流会など、多彩な交流プログラムを行った。また、本学の学生に対しては廣西師範大学の葉峰教授(油絵)の特別講演会、芸術学部1階において同教授の「世界巡回展・熊本展」と題した個展も行われた。10月23日に芸術学部学生食堂(モンマルト)で行われた歓迎会には、本学学生を中心に100名を超える参加があり大盛況だった。
- 本学からの訪中短期留学は平成20年3月16日から28日の間を予定している。



- 曾俞鈞さん(写真左/廣西師範大学環境芸術デザイン専攻3年次生)
 - 張翹芝丹さん(写真右/廣西師範大学広告デザイン専攻3年次生)
- 学生の学んでいる環境、設備がとても良いと思います。そして指導して下さる教員や学生さんが、とても親切で優しく接してくれます。今日も歓迎会を開いていただき感謝しています。日本の学生さんは作品をつくる時、次から次にアイデアが出てくるようですね。アレンジを加え、よい作品に仕上げています。とても勉強になります。



- 歓迎会に参加した本学芸術学部生と留学生たち(コメントは写真左端から2番目・宇野浩一くん/芸術学部デザイン学科3年次生/山口県・多々良学園高校出身)言葉は通じませんがジェスチャー中心でコミュニケーションしました。それで一人に話しかけると周囲の人も何々?と寄って来てくれ、気づけば仲良くなっていました。写真も一緒に撮り、とても良い記念になりました。

- <平成19年度廣西師範大学訪日団>
- 随行教員/美術学院副院長・油絵専攻教授の2名
 - 学生/デザイン専攻3年次生11名

崇城大学・環境研究教育センターを設立 記念講演会では環境ジャーナリストであり「不都合な真実」の翻訳者 枝廣淳子氏が「成長の限界・人類の選択」をテーマに講演

- 環境問題は多種多様に複雑に関係しており、これに関わる市民・企業・行政・教育関係者等も多種多様に、十分な連携・蓄積の効果をあげているとはいえない。崇城大学では環境問題の調査研究と環境教育支援を主目的とした「崇城大学・環境研究教育センター」を10月に設立(A号館2階)。地域における環境問題の知識・情報センターとしてその中心的役割を果たすことを目標に活動始める。
- 主な活動内容は環境調査研究、環境技術の助言・提案、環境政策の助言・立案、資料収集・蓄積、環境ネットワークの構築、環境教育活動、成果の公開・出版活動など。
- 10月6日には設立記念講演会「持続可能な地球をめざして」が、一般参加者を中心に400名を超える参加のもと、本館6階学術講演会場で行われた。講師は環境ジャーナリストであり、第79回アカデミー賞で2部門を受賞したアル・ゴア(米国元副大統領/2007年ノーベル平和賞受賞)著作・制作「不都合な真実」の翻訳者、枝廣淳子氏。「成長の限界・人類の選択」をテーマにした講演に引き続き、「不都合な真実」が上映された。



「成長の限界・人類の選択」をテーマに講演される環境ジャーナリストの枝廣淳子氏。第79回アカデミー賞で2部門を受賞したアル・ゴア(米国元副大統領/2007年ノーベル平和賞受賞)著作・制作「不都合な真実」の翻訳者でもある。



Active graduate 活躍する卒業生

卒業生直撃
interview

学生時代に取得した第1級陸上無線技士資格を活かし 宮崎放送では生中継にも活躍

株式会社 宮崎放送
●常盤 将弘さん
2006年3月 情報学部 電子情報ネットワーク工学科卒業 宮崎県・都城東ヶ丘高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください
●勤務先は宮崎放送です。職種はスタジオカメラ、取材カメラ、スタジオスイッチャー。朝の情報番組や夕方のバラエティ番組、夜のニュース番組でカメラやスイッチャーの仕事をしています。中継先でのスイッチャーやTD、カメラなどもやります。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●大学4年間は長いけど、あっという間に終わります。社会人になると、楽しいことはなくなる……いえ、少なくなるので、今のうちに楽しい思いをいっぱいしてください。勉強はそんなに頑張らなくても、普通にやればいいのではないのでしょうか。頑張らずに、怠らず、適度にやれば何か見えてくるので。

学生時代の思い出を教えてください
●いつも図書館の机に座っていたこと、研究室で担任の先生や友人と喋っていたことが思い出に残っています。卒業研究に取り組みながらも、ずっとおしゃべりしていました。

将来の夢を教えてください

●まず、少しでも早く一人前になることです。そして、尊敬している上司を超えたいと思っています。キー局で仕事することも夢です。とにかく今は前に突き進むのみだと思っています。周りに置いていかれないように、がむしゃらに頑張りたいです。

●それと就職活動のことは今も思い出します。当時は苦しかったけど、今は良い思い出になっています。

大学時代に学んだことが
今どのように活かされていますか

●学生時代に第1級陸上無線技士の資格を取得したのですが、そのことが今の仕事で最も役立っています。中継時など、この資格がなければ扱うことができない機器があります。また、粘り強く勉強していたこともあり、それが精神的な強さにつながっていると思います。

卒業生直撃
interview

「F1」用エンジン軸受材料の開発に携わりつつ 将来の目標とするのは地球に優しい車づくりへの貢献

大同メタル工業 株式会社 中央研究所トライボ研究室
●幸島 元彦さん
2000年 工学部 機械工学科卒業/2002年 大学院 修士課程 機械工学専攻 修了/
2005年 大学院 博士課程 機械システム工学専攻 修了/福岡県・東海大学付属第五高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください
●勤務先は大同メタル工業株式会社・中央研究所トライボ研究室です。大同メタルでは、自動車のエンジンなどに使われるすべり軸受という部品を主に扱っています。大同メタルは「F1」に参戦する有名チームへもエンジン軸受を供給しています。私の仕事は、流体潤滑の研究と製品の評価試験法の研究です。F1用のエンジン軸受材料の開発にも携わっています。

崇城大に学ぶ後輩たちへ
アドバイスやメッセージをお願いします

●卒業研究には積極的に取り組み、わからないことは必ず質問し、よく議論してください。技術系の会社ではその時の経験がきっと役立つと思います。

学生時代の思い出を教えてください
●機械工学科の研究室で混合チームを作り、熊大の機械システム工学科の学生とソフトボールの試合を行い、その後みんなでバーベキューをして飲んだことが思い出深いですね。試合には藤田先生、熊大の秋丸先生にも参加していただきました。

将来の夢を教えてください

●夢は地球に優しい車づくりに貢献することです。車の摩擦による損失は冷却、排気損失に次いで多く、これをどこまで減らしていけるかで燃費も変わってきます。がんばります。

大学時代に学んだ事が
今どのように活かされていますか

●今の部署では、卒業研究で使っていた試験機と同じものがいくつかあり、その時の経験が役立っています。また、大学時代に覚えたCADは毎日使っているのでも役立っています。

International exchange it

国際交流だより

学術交流協定を結ぶスリランカ・キャラニア大学より マンガリカ博士が来学

今年10月、学術交流協定を結んでいるスリランカのキャラニア大学より、マンガリカ博士が派遣された。マンガリカ博士は3か月間、本学で専門の東洋美術の研究や芸術学部の学生や教員との交流をはかっている。



voice

スリランカ
キャラニア大学
マンガリカ博士

- 崇城大学の学生の皆さんに、この親善メッセージをおくることをとてもうれしく思います。私はスリランカ・キャラニア大学の学術交換プログラムにより、客員教授として崇城大学にやってきました。
- 短い滞在期間ではありますが、この間に少しでも、スリランカの豊かな文化遺産について皆さんにお伝えすると同時に、日本の人々の美意識にもとづく美しい精神性を深く理解することが、私に与えられた使命だと考えています。
- 私は今回の滞在を、皆さんと共に経験をわかちあい、意見を交換しあう、素晴らしい機会にしたいと思っています。

Club's now

このスピード感!! スリル感!! 感動はクセになります

- 私たちアイスホッケー部は11月と3月に開催される九州大会に向けて日々練習を重ねています。
- 前回の試合では佐賀大学、福岡工業大学、長崎総合科学大学相手のリーグ戦で2勝1敗の好成績を残すことができました。
- 現在、部員数はあまり多くないですが、飲み会やバーベキュー、鍋パーティーなどを行い、1年次生から3年次生まで仲良く楽しく文字通り“わいわい”活動し、部員間の交流も深めています。
- アイスホッケーは珍しいスポーツであり、なかなか想像がつかないと思いますがめっちゃくちゃ楽しいです。このスピード感、スリル感、一体感、そして感動は一度味わってみるとクセになること間違いなしです!! みなさんも学年、年齢なんて気にしないで、一緒に氷上を駆け回ってみませんか。



部長
生物生命学部
応用微生物工学科3年次生
梶原 崇弘くん
福岡県・朝倉高校出身

アイスホッケー部

写真部



自分で撮った写真の現像から紙焼き 展示会での作品発表まですべて自分で

●写真部では、自分で撮ったフィルムを現像して紙焼きし、展示会を開催して作品を発表しています。すべてを自分でしなければいけないので、現像の仕方や焼き方などの技術が身につきます。また、写真について意見を出しあう場もあるので、写真の撮り方なども勉強になります。写真はモノクロが中心ですが、最近ではカラーも取り入れています。先輩、後輩の仲もよく、とても楽しい部です。

部長
生物生命学部
応用生命科学科2年次生
手柴 衣理さん
福岡県・久留米信愛女学院高校出身